

## (10)九州



九州地域では、景気は下げ止まっている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は持ち直しに足踏みがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)。

### 前回調査からの主要変更点

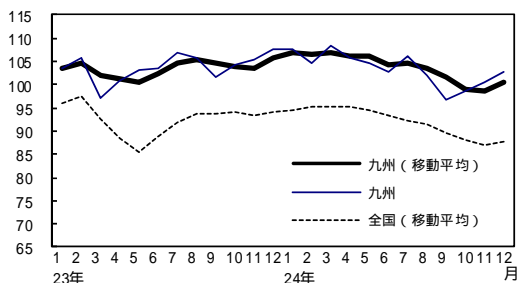
	前回(平成24年11月)	今回(平成25年2月)	
景況判断	弱い動き	下げ止まっている	
鉱工業生産	減少	持ち直しの動き	
住宅建設	大幅に増加	増加	
雇用情勢	厳しい状況にあり、持ち直しに足踏み	持ち直しに足踏み	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

電子部品・デバイスは、スマートフォン向け部品が生産が押し上げたものの、全体では横ばいとなった。輸送機械は、エコカー補助金による政策効果の一巡等から減少した。食料品・たばこは、好天に恵まれたことや新商品販売によりビールが好調だったこと等から増加した。一般機械は、一般蒸気タービンや半導体製造装置の生産が好調だったこと等から増加した。化学は、インフルエンザ用の医薬品製造が好調だったこと等から増加した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電子部品・デバイス	15.6	6.3	0.0	3.2	2.2
輸送機械	15.4	0.6	11.7	11.1	3.1
食料品・たばこ	10.6	4.6	4.4	5.5	4.7
一般機械	10.6	11.3	2.4	0.1	5.0
化学	8.2	0.0	7.6	6.1	3.4
鉱工業	100.0	2.7	1.0	0.7	2.9

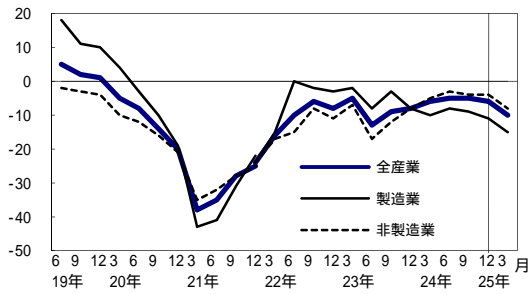
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。  
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 10~12月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

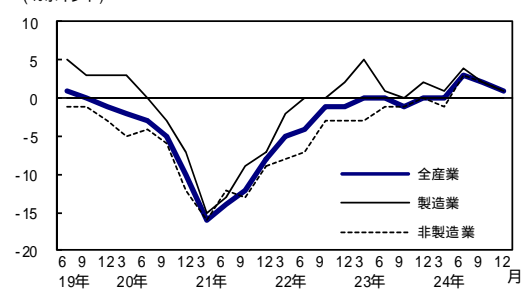
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



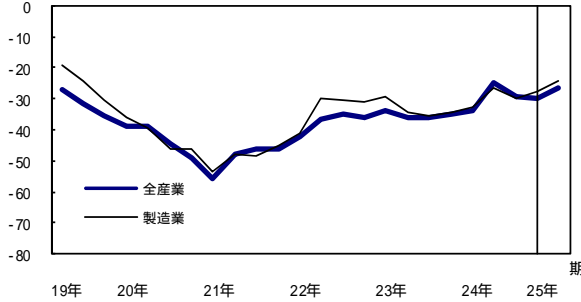
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年3月は予測。  
21年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
21年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。  
九州(含む沖縄)地区のDI。

#### 景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「新年度に入って受注が思わしくなく、新商品は数量がなかなかまとまらない。量産メーカーであるので受注量を多くとると価格競争が激しく、業績につながらない。また円安になっており、燃料であるガスの料金が大幅上がり採算が取れない(窯業・土石製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 24年度の設備投資は、前年度を上回る計画となっている。

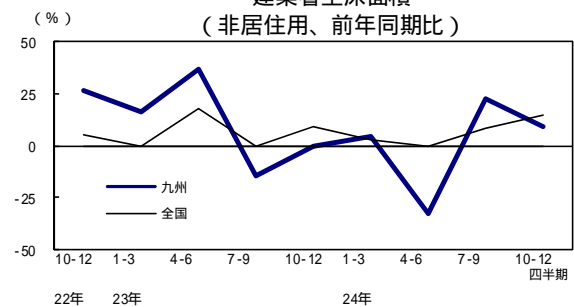
企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	19.5	8.2 (0.6)
製造業	17.5	12.1 (3.7)
非製造業	20.4	6.3 (1.0)

(備考) 1.( )は前回(9月)調査比修正率。

2. リース会計対応ベース。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

### 大型小売店販売額

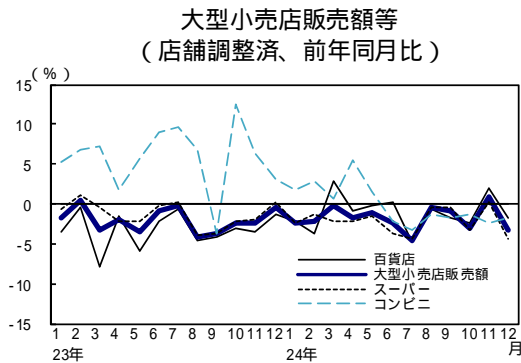
大型小売店販売額は、前年同期比で2.0%減、前期比で1.9%増となった。

百貨店は、10月は、気温が高く衣料品が低調だったこと等から、前年を下回った。11月は、気温が低く冬物衣料や防寒用品が好調だったこと等から、前年を上回った。12月は、前月好調だった衣料品が低調で、飲食料品なども動きが鈍かったこと等から、前年を下回った。

スーパーは、気温の影響等により衣料品の動きが鈍かったこと等から、前年を下回った。

### 景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「政権交代により取組のスピードは早くなった気がするが、実際に景気が上向くまでには至っていない。円安により企業によっては今後恩恵が出てくるが、一方でガソリンや小麦など輸入に依存する生活必需品の価格が高騰しており、消費者の財布のひもは緩む段階ではない(その他小売[ショッピングセンター])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	1.6	1.7	2.1	2.0
百貨店(*1)	0.9	0.2	2.7	0.9
スーパー(*1)	1.9	2.5	1.8	2.6
大型小売店(*2)	0.6	1.1	1.3	0.4
(季節調整値)(*3)	( 1.0)	(0.1)	(0.2)	(1.9)
乗用車(*4)	46.5	75.6	18.9	1.2
(季節調整値)(*4)	(9.6)	( 0.1)	( 5.2)	( 5.3)

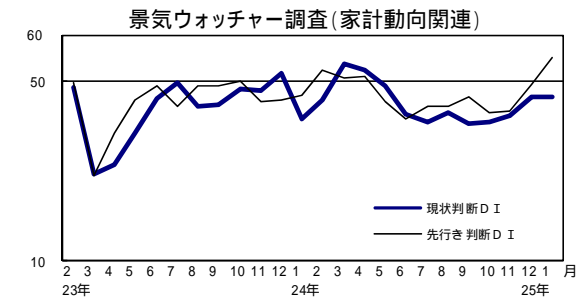
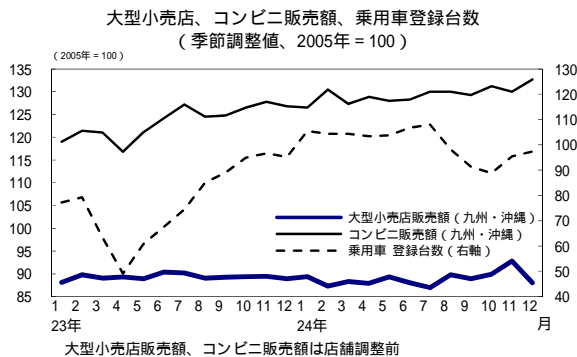
(備考) 1.九州・沖縄地区、店舗調整済、前年同期比(%)

2.九州・沖縄地区、店舗調整前、前年同期比(%)

3.九州・沖縄地区、店舗調整前、前期比(%)

4.乗用車は乗用車新規登録・届出台数。

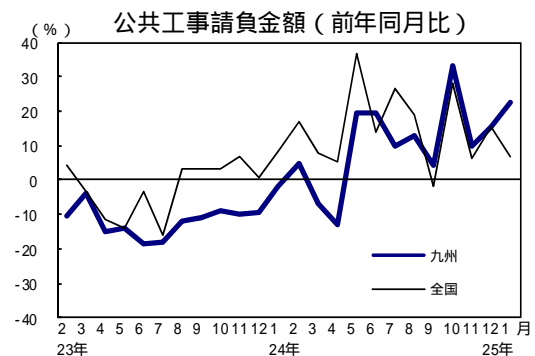
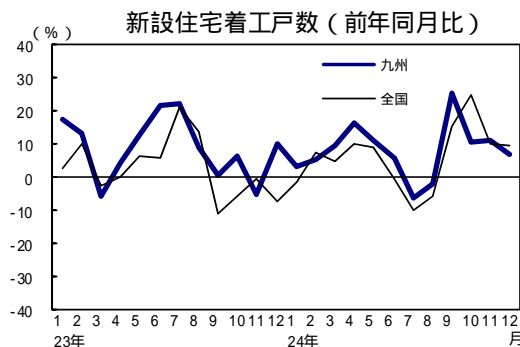
(上段：前年同期比、下段：前期比)



(2) 住宅建設は増加している。

分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度を上回っている。

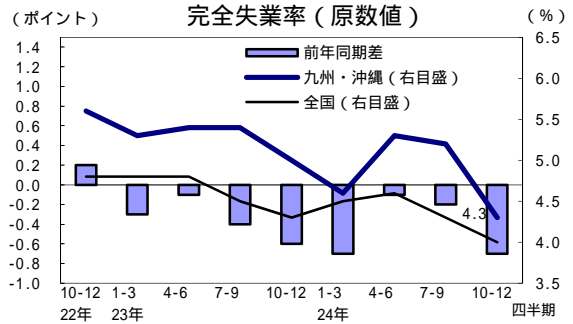
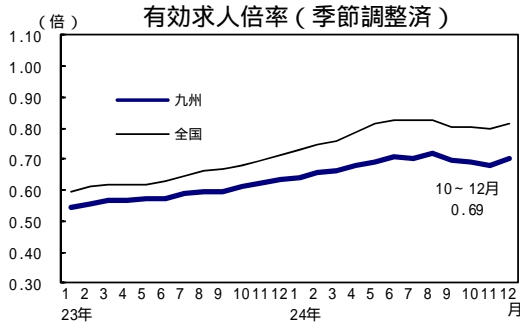


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(1月)[雇用関連(現状)]

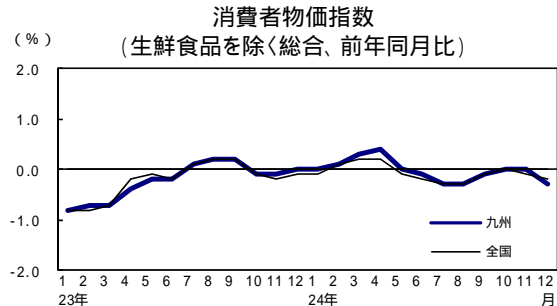
「求人開拓に力を入れていることもあり、新規求人数は前年比で3か月連続で2けたの伸びとなっているが、うち非正規求人数の割合が過半数を占めている(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばい、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	25年1月
倒産件数	213	198	197	211	53
(前年比)	14.5	1.5	10.5	1.0	23.2
負債総額	354	554	398	500	67
(前年比)	10.0	37.5	3.1	87.2	35.4



景気ウォッチャー調査(1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・建設業を中心に受注量は継続して増加傾向にある。前向きな運転資金の調達需要までには至っていないが、資金は動いている(金融業)

<先行き>

・現実に物の動きが良くなりつつある。鶏肉の輸入は円高にも少し歯止めがかかり、国内産の評価も上がり、鶏肉相場はなんとか落ち着いている(農林水産業)

